

小林 隆さんのページ

職人まがいの人生！

なにかこの言葉が私に相応しいのではないかと思ったりする今日この頃です。



小2の時に「ナショナルの懐中電灯」を分解して自転車にヘッドとテールランプを作りつけたのが火付けとなって、ゼンマイと歯車が欲しくて潰した時計が3個、モノを壊して親に怒られるのが習慣になりました。弁解……それでもチャンと別のモノ(オモチャ)に作り替えていました。

小6の時、レオタックスというカメラを壊すなよという条件で買って貰ったのがカメラとの付き合いの初めで、今日まで65年、色々なカメラと仲良くやってきました。

戦中戦後は闇ルートでフィルムを入手し、押し入れで現像や引延ばしをして楽しんでいましたが、カラー時代になってさすがにそれは諦めました。デジカメが出現して水を得た魚の感じで、機能の技術的な分析が面白く、万博以来のことですが、現在はフィルムでは叶わなかった夜景の撮影にはまって夜遊びしています。

愛車スカイラインの前で（土岐ドライブにて）

今ひとつ、生活に離せなくなったキーボードなるモノに触れたのが1985年。今はパソコンとデジカメの仲を取り持ちながら、何か変わったことができないかとオモチャ気分で毎日触れています。また、パソコンで図面を描いては、電動工具を駆使して日曜大工のまねごとをするのも恒例になったようです。

一方、子供のころから飛行機なるモノが好きで、戦中はグライダーの訓練を受け、特攻を前提とした航士校の受験を勧められ、際どいところで通れたのも一つの思い出になりました。（命拾いでした）

戦後は米兵から模型のエンジンを買っては模型飛行機の競技会に出たりして楽しんでいましたが、どちらかといえば設計が好きで、それが尾を引いて中島飛行機の櫻井真一郎氏の設計になる「スカイライン」に魅せられ、現在まで浮気せずにスカイひと筋にドライブを楽しんできました。

思い返してみると、自分で納得できるまでという職人まがいというか、モノにのめり込む性癖があるようで、80年の人生を前に、僅かな余生もこのままのバカで終われたら幸せかなと思っています。



高松宮ご臨席のもと、宮杯で優勝したときの模型飛行機
（毎日新聞社撮影）



パンアメリカン航空の依頼で製作した当時のジャンボジェット機

4基のエンジンを搭載し、実際にUコンで飛ばしました。



名駅イルミネーション



なばなの里イルミネーション



万博夜景

[索引ページへ](#)